

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

歯学部

部局長名：

大原 直也 歯学部長・
医歯薬学総合研究科副研究科長

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
DXを取り入れた学修者主体の教育課程の構築を目指し、SDGsの達成を促進する優秀な歯科医師を養成する。 1) 志願者獲得のため、UAAと協力して積極的に広報活動に努める。 2) 学修者主体となるように3ポリシーの見直しを図る。 3) キャリア教育をさらに充実させ、卒後臨床研修センター・大学院との連携をさらに進める。 4) DXを教育課程に取り入れることを検討する。 5) 中止となっていた歯学部生の海外派遣と海外提携校の学生の受入れ再開を検討する。 オンラインを活用した交流を拡大する。 6) 歯科医師国家試験の高い合格率の維持に努める。研修医の高いマッチング率の向上に努める。 7) 学生とともに教育の点検・評価を行い、カリキュラムの改善に努める。 8) 診療参加型実習を充実させるとともに、その効果を客観的に評価する。	2-1-2 2-1-3 2-2-1 2-2-2 6-1-1 7-1-3	1)UAAと協力のもと、県内の有力進学高校を積極的に訪問し、歯学に関する説明と質疑応答も行った。Webオープンキャンパスでは150名を超える参加者を得て、活発な質疑応答がなされた。推薦型選抜に既卒生の志願者が複数あり、 推薦型選抜方法が周知されてきた。国際バカロレア選抜の出願者はこれまでで最も多い4名であり、次年度の国際バカロレア選抜の枠を拡大する結果になった。 3) 学務委員会と教務委員会の共催で卒後臨床研修センター教員とともに2年次生、5年次生に対しての キャリアパス説明会を開催し、学部・卒後臨床研修センター・大学院の連携を進めることができた。このことは実施後のアンケート結果にも反映された。 4) 令和3年度補正予算「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」によりシミュレーション機器や光学印象用器材を導入し、 デジタル化を取り入れた最新の歯科医療を実際に体験、自験する環境が整備され、臨床基礎実習や診療参加型実習でのDX化を進めた。 インプラント再生補綴では、日本で初めて、 基礎実習を完全にデジタル化し、汎用ソフトウェアを用いたデジタルワックスアップへ刷新した。コロナ禍でありながら、自宅でも実習が可能となった。 歯科矯正学の基礎実習では、 口腔内印象を光学印象で採得する実習ならびにセファロ画像のデジタルトレースを教育課程に組み込んだ。 5) 短期留学プログラム(ODAPUS)を再開し、岡山大学から8名を派遣し(ブラジル5名、チリ2名、カナダ1名)、協定校から24名を受入れた。日本学生支援機構海外留学支援制度学生交流推進タイプに採択されている。海外の大学とWeb交流を今年度も実施し、定着させつつある。 8) 診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験として、臨床実地試験、一斉技能試験を実施し、全員合格した。 9) 英国・マンチェスター市で開催された「次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World 2022」に歯学部学生が日本代表団の一員として現地参加した。
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
大学院(歯学系)に統一。 研究大学としての岡山大学の構築を牽引するための施策を制定する。 1) 歯学部先端領域研究センター(ARCOCS)の組織改編を検討し、優れた研究成果に繋げる。 2) 科研費の高い獲得率の維持に努める。また、科研費以外の公的な外部資金の獲得に努める。 3) 受託研究、共同研究の受入れ増加に努める。 4) 「臨床研究中核病院」、「橋渡し研究戦略的プログラム」等のプロジェクトに、歯学系の特徴を活かして協力、参画し、積極的に基礎研究と臨床研究を推進する。 5) 教育研究分野を超えた共用スペースの運用を始め、歯学系内の共同研究を増加させる。 6) 歯学部棟改修に伴い、大学院生が積極的に協調して活用できるスペースを拡充することを設計に盛り込む。		大学院(歯学系)に統一。 1) ARCOCS組織改編の最初の一步として、新たに研究専任教員のポストを設置、優秀人材を求めて全国公募を行なった。その結果JSTの支援の下、独立して研究を進めよう人材の配置を実現し、研究基盤の増強に成功した。 2) 科研費では高い採択率を維持し、歯学領域での科学研究費新規獲得件数は全国4位であった。今年度は基盤研究(B)で前年度を超える5件の採択を果たしたほか、基盤研究(C)では38%、若手研究では48.3%と前年度の全学平均をいずれも上回る採択率となった。 3) 受託研究についてはCRESTに採択され(研究代表者、松本卓也教授)、AMEDを含めて7の委託者からの研究を受け入れ、受入金額総額は1億365万円に達した。また共同研究についても5件を受け入れている。 4) AMED事業「大腸菌発現系由来rhBMP-2含有β-TCP製人工骨を用いた顎骨再生療法」、文科省事業「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」、岡山大学病院オープンイノベーションラボを拠点とした「スーパーシティ構想への参画を通じた地域課題の解決と新たな産学連携オープンイノベーション体制の構築」を実施し、歯学系のより広い貢献が可能となった。令和4年度は、臨床研究中核病院として歯科系の医師主導治験を2件、特定臨床研究を5件実施しており、このうち特定臨床研究の1件は、令和4年度に新規に開始したものであり、歯科系の特徴を生かして積極的に臨床研究に取り組んだ。 5) II期にわたる歯学部棟改修のうちI期を終了し、各階に設けた「共用リサーチスペース」と「ケミストリーcommons」の教育研究分野を跨いだ運用を開始した。 6) 歯学部改修II期工事開始を前に、大学院生がボードレスに情報交換ができる共用スペースとして「共用リサーチスペース」の拡大と多くの「セミナー室」を設定し、設計に盛り込んだ。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
地域医療の更なる充実を図るとともに、高度医療人となりうる人材を育成する。 1) リカレント教育の構築を推進し、一層の充実を図る。(ハイブリッド型リカレント教育) 2) 歯科医師会、同窓会、行政等との連携を拡大・強化し、地域に対する社会貢献の実施体制の発展を検討する。 3) 摂食嚥下障害のリハビリテーションの多職種連携等を通じて中国・四国に食育支援のネットワーク構築を検討する。 4) 岡山県がん連携協議会の歯科部門で、がん連携拠点病院や県歯科医師会、県衛生士会との連携を図る。 5) 医療連携推進のための人材育成、教育、研究の充実を図るため、医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターと連携して、デジタル等の活用を検討する。 6) 「デジタル田園健康特区」に参画し、デジタルを活用し、口腔を通じて地域住民の健康増進に貢献する。	1-1-3 2-1-1 6-1-1 10-3-1	1) 歯学系教員によるリカレント教育は本年度4年目を迎え、 受講者のニーズに合わせるべく学外講師を迎えるなど、充実を図った。さらに、実施組織の再編に着手した。 2) 岡山県歯科医師会と連携し、岡山県行政に対して障がい者歯科の推進に関する計画を協議した。岡山市歯科医師会と岡山大学の学生および教職員の健康増進に関して協働することを確認した。医科・歯科連携により、奥地の健康増進のために国内外から広く患者さんを受け入れることも目的として、 岡山大学病院に「お口の健康管理センター」を開設した。 3) 岡山大学摂食嚥下障害研究会主催の食支援ネットワーク研修会をWEBで6回開催、摂食・嚥下リハビリテーション従事者研修会初級コース(8回コース)をWEBで開催、さらに、岡山県在宅療養者に対する歯科医療推進事業障害児の摂食嚥下障害への対応研修会を対面2回行い、中国・四国における食育支援に貢献し、今後のネットワーク構築の検討につなげた。 4) 岡山県がん診療連携協議会歯科部会で2回のメール会議と2回の講演会を行い、また県下の医科歯科連携の実態についてアンケート調査を行った。また、岡山県の委託により「岡山県がんサポートガイド」の作成に医科と連携して着手した。 6) デジタル田園健康プロジェクトの実装タイプ事業を2題提案し、どちらも採択された。 1課題は連携企業と共同し、予定通り計画を進めている。もう1課題は、歯科領域で先端的にAI技術に取り組む企業と実装可能性を論議した。
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
上記①②③の達成に向けて部局運営体制を強化・活性化する。 1) FD・SDを充実させ、構成員における組織計画等の情報の共有をさらに高める。 2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会が主体となり、教職員と学生が一体となって教育の点検・評価・改善を行う。また、大学院歯学系においても点検・評価・改善を行うシステムの構築を検討する。 3) 研究力増強のために、歯学部先端領域研究センター(ARCOCS)の組織改編を検討する。 4) 社会や様々なステークホルダーとの連携を充実させる。 5) 歯学部棟改修に伴い、海外交流のためのスペース、地域の歯科医師や様々なステークホルダーと共創するためのスペース確保を具体化する。 6) 情報セキュリティ体制について、全ての構成員に対する教育の充実を図る。 7) 全学のDX推進を牽引する組織体制に協力する枠組みを検討する。	2-1-2 3-1-2 7-1-4 12-1-1 12-2-1	1) 歯学部長と教育・研究担当歯科系副院長によるFDを行い、歯学部の方向性を構成員に周知・共有した。 また岡山大学病院新医療研究開発センター教員によるFDを行い、歯学系に於いて重要な位置づけである臨床研究の具体について周知・共有した。 2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会が主体となり 学生とともに教育の点検・評価し、改善すべき項目を掘り出した。 また、令和5年度に大学基準協会の歯学教育評価を受審することになり、その調書と資料の作成を行うことで、歯学部全体の点検・評価を行うことができた。 3) ARCOCSの組織改編を検討し、新たに研究専任教員のポストを設置した。 全国公募を行い、独立して研究を進めよう人材の配置を実現し、研究基盤の増強に成功した。 4) 岡山県をはじめとする行政、岡山県歯科医師会をはじめとする各歯科医師会、岡山県がん診療連携協議会歯科部会、岡山大学病院などのステークホルダーとの連携を深めた。 5) 歯学部棟改修工事第II期の設計に際して、海外交流のための「国際歯学センター」や地域の歯科医師などと共創するための「ソーシャルcommons」、そして「オープンラボラトリー」を歯学部棟に組み込み、工事に着手した。 7) 歯学部教務委員会の下部組織に デジタル歯学教育部会を設置し、AIを専門とする自然科学域の教授に外部顧問を委嘱した。 部会での情報を共有することで、教育のデジタル化を推進している。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。